

年少児保育案

はな組 男児 9名 女児 10名 計 19名
保育者 味園 佳奈 坂元 久美子

1 幼児の実態

子どもたちは園での生活の仕方も分かり、身の回りの始末や生活に必要なことなど、自分でやろうとする姿が多く見られる。「一緒に遊ぼう」など友だちを遊びに誘ったり、自分のしたいことを友だちに伝えようとしたりする姿も見られ、友だちと一緒に遊ぶ面白さも味わうようになってきた。時折、自分の思いを通そうとすることからぶつかり合うこともあるが、保育者に互いの気持ちを代弁してもらったり、必要な言葉を教えてもらったりして、子どもたちなりに気持ちに折り合いをつける経験もしている。

園庭では、天気の良い日には、育てている二十日大根やクロッカスの様子を見たり、水を掛けたりしている。園庭に落ちている小枝や葉を集めてごっこ遊びに使ったり、ウサギやニワトリにえさをあげたりする姿も見られ、自然への関心の高さが感じられる。ボールを投げたり、転がしたりする遊びや鬼遊びなどをやる中で、体を動かして遊ぶ面白さはもちろん、友だちと一緒に隠れたり、逃げたりしてルールのある遊びの面白さも味わうようになってきた。砂場でも、友だちとプリンやケーキなどをつくって、保育者に差し出す姿が見られ、ものを何かに見立てて遊ぶ楽しさも味わっている。

室内では、空き箱製作をしたり、絵本や図鑑を見たり、音楽に合わせて体を動かしたりするなどして思い思いに過ごしており、自分なりの見立てやイメージの世界を楽しんでいる。はさみやセロハンテープ、ガムテープの扱い方にも慣れつつあり、保育者の手を借りながら、剣やポシエット、自動車など自分がつくりたいものをつくるようになってきた。自分になりたい役になって、エプロンを着て料理をつくったり、人形を寝かせたりして、ままごとを楽しむ姿も見られる。音楽にも興味をもち、保育者や友だちと一緒に、タンブリンやカスタネット、鈴などの音を出してその音色を楽しんだり、音楽に合わせて体を動かしたりするなどして過ごしている。

このように子どもたちは、自分でできた喜びを味わいながら、様々な場や活動に興味・関心を広げ、自分のしたい遊びを楽しんでいるとともに、友だちとかかわって遊ぶ中で、人とかかわり方、物の扱い方などを学んできている。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、「一緒に遊ぼう」「仲間に入れて」などの言葉を使いながら、友だちとかかわって遊ぶ楽しさを味わう中で、時には自分の思い通りにならない経験をして、相手にも思いがあることを知ったり、状況によっては、待つことや我慢することを覚えたりしてきている。

そこで、かけっこやかくれんぼ、ボール遊びなどを通して、体を動かして遊ぶ楽しさを味わいながら、保育者や友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむことができるようにするとともに、体が温まってくることを繰り返し経験できるようにしたい。かけっこやかくれんぼは、友だちと一緒に走ったり、追い掛けたり、探したりするなどして友だちとかかわって遊ぶことができる遊びである。ボール遊びは、ボールを転がしたり、投げたりしてボールに親しむことはもちろん、友だちとボールを貸し借りしながら遊びの面白さを共有できる遊びである。

こうした遊びを繰り返し経験していくことは、全身を思い切り使って自らの運動欲求を満たしたり、身近な「他」とかかわって好奇心を満足させたりして活動していく姿へとつながっていくものである。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 友だちとかかわりながら、遊ぶことを楽しむ。
- 身近な自然に触れて楽しく遊ぶ。

(2) 内容

- 好きな友だちを誘って遊ぶ。
- 自分の思いを自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えたり、相手の話を聞こうしたりする。
- 寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶ。
- 霜柱や氷などの自然に触れる。
- 身の回りのことや生活に必要なことなど自分でしようとする気持ちをもって取り組む。
- 冬の健康な生活の仕方を知る。
- 食材や献立に興味をもち、先生や友だちと言葉を交わしながら楽しく食事をすすめる。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちとかかわりながら、自分のしたい遊びを楽しむ。
- 戸外で遊んだり、体を動かしたりする中で、自然に触れ、季節の移り変わりを知る。

(2) 内容

- かけっこやかくれんぼ、ボール遊び、ごっこ遊び、空き箱製作などいろいろな遊びを友だちとかかわりながら楽しむ。
- 戸外で体を動かして遊ぶ面白さを味わう。
- 自分の思いを自分なりの言葉を使って、友だちや保育者に伝える。
- 風の冷たさや吐く息の白さなど冬ならではの自然に触れる。
- 衣服の着脱や手洗い・うがい、後片付けなど自分でしようとする。

(3) 保育に当たって

かかわりによって育まれる体験

ア 人とかかわり

- 友だちを誘って遊ぶ中で、友だちとかかわって遊ぶ面白さを味わう姿を見守り、必要に応じてお互いの会話をつなげたり、方向付けをしたりしていくようにする。

人とかかわる楽しさ 自分を出す 満足感 自信

- 遊びのルールや約束事を確認し、保育者も一緒に遊びに加わり、遊びの楽しさに共感していく。

人とかかわる楽しさ 体を動かす楽しさ 感動体験

- 防寒着の着脱や手洗い・うがいなど、冬の健康な生活の仕方を知らせ、自分で進んで行おうとしたり、友だちと誘い合っ行って行おうとしたりする姿を見守り、必要に応じて言葉を掛けるなどの援助を行う。

自立心 試行錯誤 達成感 自信

イ ものとかかわり

- 一人一人の子どもの思いが実現できるように、また、友だちと一緒に遊ぶ面白さを味わえるように、必要な「もの」を十分用意したり、片付けやすい環境を整えておくようにする。

ものとかかわる楽しさ 体を動かす楽しさ 想像力 試行錯誤 満足感 自立心

- 身近にある素材や遊具、用具などを使って、自分なりに試したり、考えたりしながら遊ぶ姿を認め、満足感を共に味わえるようにする。

ものとかかわる楽しさ 試行錯誤 満足感 達成感

- かけっこやかくれんぼ、ボール遊びなどでは、子どもの人数や経験に合わせて、遊ぶ場所に広さやルールを変えたりしながら、みんなが楽しめるように環境を整えていく。

ものとかかわる楽しさ 体を動かす楽しさ 想像力 満足感

ウ 自然とかかわり

- 風の冷たさや吐く息の白さ、園庭の木々の様子など、冬ならではの自然に触れる機会を大切にしていく。また、日だまりの暖かさや体を動かすと体が温まってくることなどを共に味わうようにするとともに、それに気付くような言葉掛けをする。

自然への親しみ 気付く

- ウサギやニワトリ、金魚などに興味をもってかかわる姿を見守り、共に触れたり、えさをあげたり、様子を見たりする中で、生き物の温もりや成長の変化に気付けるような言葉掛けをしていく。

気付く 自然への親しみ 想像力 感動体験

- 二十日大根やクロッカスの様子を見たり、世話をしたりする中で、成長の変化に気付けるような言葉掛けを工夫する。

気付く 自然への親しみ 想像力 感動体験